



小学部中学年自閉症児が、指示を聞いて、指定された物を持ってこることができるための指導



1

指導目標

【長期目標】

言葉での指示+指示書を見て、指定された物を指定された個数持ってくることができる。

【短期目標】

教員の言葉での指示+指示書を見て教室内にある食器ケースの中から指定された食器を持ってくるができる。

2

方法

【対象児】

K (4年生男児)
自閉症

【検査】

LDT-R Stage III-2 (平成25年2月)
SM社会生活能力検査
4歳7ヶ月(平成25年2月)

3

方法

【行動特性など】

- ・口頭での指示は伝わりにくい。伝わっていない時には、言われた言葉を繰り返すことが多い。
- ・漢字は小学校1年生程度のものは読むことができる。平仮名は読める。
- ・PECSを使って要求したいことを伝えることができる。段階はフェイズIV。

4

指導場面など

【指導場面】

- ・国語・算数の時間の対面学習

【般化場面】

- ・生単の調理の準備

【教材】

- ・指示書
- ・食器を入れるケース
- ・食器
(コップ・お椀・スプーン・皿・箸)



5

手続き (1)

【ベースライン】 (9月2日～9月6日)

～口頭での指示～

(指導の前) 食器の入ったケースを教室の後方に設置した。
本児と一緒に食器の確認。

- 1.教員が口頭で持ってきてほしい食器の名前を伝える。
- 2.ケースから食器を持ってくる。
- 3.教員と一緒に確認する。

6

手続き (2)

【ステップ1】 (9月9日～9月13日)

～指示書の導入+ケースに絵を貼る～

(指導の前) 食器の入ったケースに絵を貼り、視覚的に何の食器が入っているのかを示す。

1. 指示書に持ってきてほしい食器の名前を貼る。
2. 本児に指示書を読んでもらい、内容を確認する。
3. ケースから食器を持ってくる。
4. 教員と一緒に確認する。



7

手続き (3)

【ステップ2】 (9月17日～9月24日)

～指示書に個数を追加～

1. 指示書に持ってきてほしい食器の名前と個数を貼る。
2. 本児に指示書を読んでもらい、内容を確認する。
3. ケースから食器を持ってくる。
4. 教員と一緒に食器と個数を確認する。

(※個数は1～6まで)



手続き (4)

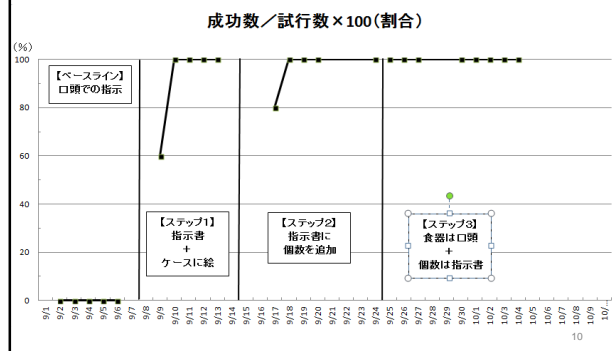
【ステップ3】 (9月25日～10月4日)

～食器は口頭で伝える+個数は指示書で～

1. 口頭で持ってきてほしい食器の名前を伝える。
2. 指示書に持ってきてほしい個数を貼る。
3. 本児に指示書を読んでもらい、個数を確認する。
4. ケースから食器を持ってくる。
5. 教員と一緒に食器と個数を確認する。



結果 (1)



結果 (2)

- ・ベースライン期では口頭での指示を繰り返すことが多く、意味を理解することができていなかった。
- ・ステップ1では、指示書を見て書かれている食器と絵カードをマッチングして正確に食器を持ってこることができた。ステップ2では個数も正確に理解することができた。
- ・ステップ3では、食器の種類を理解できていたので、口頭指示を繰り返すことはなかった。個数は指示書を見て正確に持ってこることができた。

11

考察

- ・ 指示書の導入
→指示書を導入したことで、教員からの指示を理解することができた。新しいことを学習する際に、口頭だけでなく、指示書などの手がかりとなる物をツールとして用いることが有効であるとわかった。
- ・ 今後の課題
→ステップ4として、個数も口頭で伝えるようにしたい。今回は身近にある食器を持ってこることを行ったが、日常生活の中で般化できるよう家庭などでも簡単な指示書を使ってみるなどの提案ができればと思う。

12